



3  
657  
1





序

鑑倉大系圖る世行乃

遠門  
號  
卷

積丸家庫  
明治三六年  
九月十一日  
購求

ト  
新亀屋  
猿若町  
壹丁目

葉末ひろき。源判官乃子孫。

蝦夷はゆりとの篇なりきりる

虚々実々あはれもの海をゆかんが

ウーウなえ所。物像を女あて

諸紙多神日記。續拍ぬい

信をぬく種あとい。白鼻もう

ウーウなえ

寛保四子の

業は始

作者

自笑

其笑



大系 蝦夷 嘯

一之卷

目録

第一 仙人といふハ貴者の男

仙人のまゝと雞卵の四角ハ

なみのあか海濱常陸坊がむす

中二

茶の價ハ母もさひぬび記書カ

店てんある小判こばんとかけたりある

うたはしのつひみあひ摩ま東高賞

中三

私人せんとしの身新みんごと教しやう笑がの室むろ

田舎傾城いんがけいせいの道中どうちゆうひとり

ありぐどとりあ箱はことあとの使つかひ

一 仙人せんじんとつゝハ費つぎ事ことの男おとこ

唐子たうし西せい古こ硯えん硯えんと談だんよ筆ひつ事ことハはさくはうりてよ

あり程ほど多おほく中ちゆうみ色いろ松しょう雨う羅ら還えんとつゝ俗しやくよハ赤あか帽ぼう

夷えいあして其その中ちゆう央おうハ都と。じり日本にっぽんの君きみお原はら義ぎ経けいい

あつり其その十六じゅうろく代だい月げつと占ちかん番ばん城じやう瑪ま瑯ろう耶や松しょう王おうと唐たう人じんの夜よ

何なにも日ひ中ちゆう風ふうありて一月いちげつの儀ぎ式しき難なん費ひ門もん松しょうハは及および

遊あそ大だい異い事じはあよあ万まん累らいももちんちんひんひんんんんん





あざのぶらり  
大おりのおき  
おつせつめいり

せんりうま  
せんらんせつ

あらんば  
ひらちつ  
いさつ

ひらちつ  
くのぞん  
相見せり

ひらちつ  
くのぞん  
相見せり



あらんば  
ひらちつ  
いさつ

らんらんえん  
あんのこ

ひらちつ  
くのぞん  
相見せり

あらんば  
ひらちつ  
いさつ



ざぬよるそでござれた義経公の心付しうけあがり。かやうな  
 系いつし。びうの何とぞ他人とせ止りけり。従事の致してこそ  
 ござれしん心。汝はよらるる青南友もよとよとらるる  
 ござれおゑ瑪瑠耶松王へ四月八とねがひやされねと四也。  
 海ききわくして。何とも西月さいるでござらん。義経公の一代  
 先ぞ海ききわくし。抽しおねの快といふ縁也。書もつて  
 仙人よあるし。よらるる心とつらぬりのでるきれだあぬ  
 けられた。武士の上の恥辱いふわらう。唐土あも他郷と  
 るのあきども。がーこらみのいあげて習うべし。抄ふとが  
 ぞ仙とありし。花ぞこらひとりのあも。術とありてし  
 こそいふまをれども。りーはあもおぼし。何とも西月さ  
 月も神びやふんといふれど。青南友らうらうまづと。

めでる候もれた。さのこ軍下らるるさねらうらるるのわら  
 ちのめでもらうとらるる。鼻の下のあつた人よはらるる  
 子年鬼の心。青南友の心。何の用とらるる。ぞやとらるる。  
 青南友をたよらるる。瑪瑠耶松王の心。らうらるる。  
 鼻の下すする人の。青南友の心。あつた。そのつらとらるる。  
 めんがせと。その方のあつた。こらるる。鼻の下三  
 すもわらぶと。あつた。のあつた。らるる。とせあつた。海き  
 ころあつた。らるる。のあつた。らるる。の浦徳を帯はるる。とら  
 りつとらるる。鼻の下すする人。びつとらるる。鼻の  
 させ人なるべし。まらるる。さやうの。人ねよらるる。とら  
 まらるる。らるる。のあつた。とらるる。とらるる。とら  
 だ。義経公の心。あつた。のあつた。とらるる。とらるる。とら  
 だ。





カセビ。いんや。痛若と。さしひあするやと。さうふ  
りあおぞ。さめぐの病人あはあ甲う。二貼止に張つての價  
と切て来ふか。の倍うもさうく。んさみだの蓋よつこ  
と。一茶と。はあさり。此れ。なりのたのまなうふ。十  
貼よせつて。八つ。こつ。はよ引つ。二帖うこつ。みりやう  
あてもつ。だ。下へ。からなるゆ。人。徳。人。壽。天。の。只。ひ。と。あ。  
あ。う。有。る。や。志。や。と。業。代。の。卵。は。實。加。積。の。百。文。つ。も  
さ。し。と。ろ。す。す。此。れ。は。ひ。ろ。す。り。毎。日。五。十。貫。六。十。貫。の。錢。と  
あ。て。や。り。た。ろ。と。大。坂。よ。二。西。の。か。業。と。り。よ。芝。居。掛。の。男。是  
か。ど。り。う。け。あ。く。い。は。良。よ。あ。れ。ね。る。高。ら。お。は。あ。さ。う。ん。  
その。う。親。代。の。醫。者。が。業。へ。の。か。い。て。積。年。學。問。と。い。げ。こ  
い。ろ。く。の。者。也。と。ん。の。く。て。ま。さ。の。治。ら。ぬ。と。い。ふ。ん。は。放。て。い。

ゆるぬ病おがさま。い。う。よ。神。仙。の。告。じ。と。て。養。中。の  
少。法。い。り。あ。て。も。か。め。と。り。仙。神。ら。り。救。医。名。の。方。が。病  
お。す。り。て。の。お。候。お。ま。ま。は。ま。と。の。も。あ。ん。で。居。る。け。世。界。へ。  
作。が。め。め。さ。は。後。切。して。當。り。や。う。ん。を。れ。と。も。親。老。の。ひ。へ  
い。つ。つ。き。と。り。小。細。い。と。ら。が。室。の。山。と。ん。へ。と。り。是。能。く。せ。さ。る  
お。ひ。か。り。て。廣。い。大。坂。で。ひ。ろ。め。う。う。だ。こ。と。り。い。無。名。の  
待。り。の。増。あ。ま。し。と。さ。つ。さ。之。里。の。た。と。よ。道。れ。地。う。り  
い。ん。ま。ら。さ。ち。り。れ。れ。と。輕。飯。ら。よ。て。ゆ。ら。り。よ。ま。ご。を。中。ま。よ  
場。へ。ま。た。小。治。の。ま。ご。と。徘徊。ま。ら。う。ら。そ。ら。を。親。老。お。の。法  
通。う。じ。や。と。人。の。心。ん。て。孫。の。名。を。つ。も。あ。ぎ。親。老。を。以。後  
お。の。と。し。海。の。ど。く。ある。と。ま。か。業。つ。あ。て。あり。と。日。と。西  
山。よ。う。い。あ。さ。業。業。と。と。あ。く。仕。也。財。は。あり。て。業。海。の



さんとは、僕等の大業をへつせゆき。あつてもきぬく  
のほさうなとりかへて。倍をりせり。さうさうのち  
くやさんよの術にかくのどくでござる。何とぞさ  
ても人のとがぬとりよる。又かよごごりまをさし  
かのとつた。倍たさるまかとりた。かる奇術ハ大業ま  
あまうら。何とぞ西指ぬたのどくをまづるよのとさ  
ありう。あけの。親吉のゆい業の引つくとつら  
ぬまゆをへく下されよ。引うまよつとさんとてんあまが  
さそくさいせんあまめ。よあめゆい海をぞ中く。  
よあめ親吉の術でも。まづるまよあまあまうら。  
たがひは術とりとつて。つとたはなうら。や。おえ  
へやとめとま。つとたはなうら。と。切米し。碓よりよ。倍

扱のむののこさだ。たがひはあてとりかへられぬ。か  
き来うきく。あつと術まお。こ。い。とぬごひ。く。え  
ア。り。ふ。倍も宝と地。ら。ん。地。く。宿。ま。う。り。か。の  
一通とひ。う。さ。ん。ま。だ。一。業。く。し。よ。戒。後。人。ゆ。き。さ。あ。を  
に。又。お。お。對。し。て。今。ま。り。く。あ。く。な。し。の。ら。ね。つ。ま。を  
同。く。し。て。何。と。と。り。て。ま。ひ。ま。ゆ。も。ま。か。む。べ。う。ん。ま。う  
い。か。ま。さ。れ。さ。ま。り。あ。べ。う。だ。り。つ。ま。て。来。ぬ。は。い。こ  
分。二。ハ。返。し。ま。せ。ぬ。三。分。一。ハ。その。ま。の。地。さ。る。べ。し。と。さ。さ  
り。あ。く。な。し。一。支。替。金。の。ま。り。ん。三。支。分。の。泥。と。ま。う。う。ご。ま  
お。け。ゆ。き。小。判。し。て。出。し。あ。さ。あ。ら。う。べ。し。後。ね。つ。ま  
の。あ。つ。時。あ。て。か。つ。つ。と。も。ち。と。ま。け。が。あ。ら。ね。ま。相。い。あ。て  
ら。れ。ら。う。年。切。米。あ。て。お。く。な。し。を。引。替。ち。ん。と。ん。と



建久二子の事でござり申しと

三 服人の形作と敷賀の里

緋編緬も衣は仕らさむを借ふ衣とらやきまられん  
切て女の腰よりとく下紐の着は襟せそ。新しと  
りた衣柄よりけりてもおちよと。緋編緬よかとりはま  
りともそのおとあよありて貴族殊まり。形でハ  
形といふと。越後でハ越前と扱といなり。いりぬ。んぞと  
まを。流れを汲いよと。又越前國敷賀とい  
ハ千瀬といなり。さうさうと後といんぞ。ぬれとさうさ  
とのあえ其千瀬より一帳あがりたる女とありて  
も後信と名づけして信守町といなるよ。婿頼三軒。頼  
田義貞金が依の時信守の跡といふ遊女と。ぬれ

のぞくとき平記あともさう。初月の家くも衣裳  
も純子文綱垢づき。其の敷具も絹指のこつ。蒲団  
くぐりかぬよ。あつとまむ小玉の。新に商人この  
深は新とつけて。お代りらざる。心よ。遊風が吹くと  
考るやいふや。考もろくふとる。あま。拂ハ新衣にま  
せてけられゆ。たのこささらざりの中あも。松前ふひよ  
と。そののり事ろし。商人五郎八といなるが。新衣を  
のつとらうといふ女。あの中とてなぐとられた。この  
五郎八といふ男。松前あても賢い者。と。まゝある。十  
遊。あゆみ。けいふ十八。新といふ。新衣の。熱掌候。またの  
まれ。信方の。お相好。りも。けい男。は。折。ま。う。せ。て。の。お。ん。か。  
又。十。二。と。い。ふ。業。の。さ。ら。る。み。ま。て。けい。中。風。吹。あ。く。あ。く。よ

三之巻 終  
返るる。船くもりも。むらうひふあして。うらゆれん人  
のあそびよゆくと。忘らひまされども。自脱のゆれぬ。青んを念。  
さうことりして。志のひよ。栗肉のうの。免候す。てハ。手ぐさ。  
ん。びらりのやくわと。おとよよつして。もめてハ。公のこけと。  
まじりて。ふさり。おまら。がたうらと。放て。船の炊奴を。さき  
あし。一。を。志のみ。さめを。おらり。る。自。も。何ぞ。あが。せ。  
ず。う。よ。て。も。お。ぼ。ん。も。それ。ゆ。く。ほ。り。て。四。比。布。切。の。藤。ち。ら  
が。店。屋。の。垢。へ。や。れ。れ。と。文。よ。書。て。あ。ら。う。と。思。ひ。い。う。て。途。  
ん。て。の。後。の。う。海。ま。ら。う。が。ね。む。う。ハ。物。を。お。り。も。さ。ん。の。り  
と。あ。よ。て。後。の。お。と。り。を。す。も。さ。う。も。船。人。の。え。ぬ。り。ま。乾。  
銚。み。な。そ。ん。て。お。ら。り。も。れ。ん。お。ら。う。も。悔。あ。る。女。ら。い。も。返。る。み  
こ。ぬ。ぐ。と。志。う。め。さ。か。ど。ん。ま。む。ら。う。う。ぐ。れ。め。あ。ら。う。と。ん。

事。何。れ。た。の。こ。も。う。さ。れ。が。さ。う。ん。ま。ま。よ。ま。い。船。を。使。た。と  
や。ん。あ。げ。や。ま。て。い。い。で。あ。ら。う。べ。い。ま。ら。う。け。や。さん。と。の。奥。よ  
あ。し。も。ね。あ。の。ん。ん。あ。と。う。て。お。ら。う。と。ら。い。お。う。て。う。い  
う。と。志。の。み。づ。う。と。さ。う。て。う。か。志。を。極。の。下。ら。う。た。え  
結。う。れ。り。あ。き。せ。り。ん。も。う。と。ち。し。ち。よ。う。と。ん。と。其。え  
ハ。げ。あ。の。返。る。み。よ。あ。ら。あ。で。ま。と。り。あ。ん。も。つ。ん。任。者。の。礼。  
の。守。り。と。一。ふ。よ。代。へ。い。れ。て。前。よ。う。け。う。め。さ。か。さ。り。た。く。  
想。さ。い。ま。う。い。船。が。風。待。ひ。ま。ど。ら。と。そ。て。あ。き。ひ。ふ。一。出。り。け。ら  
せ。て。ふ。り。と。ま。い。え。い。り。よ。け。て。あ。き。と。子。細。ら。う。く。つ。あ。と。さ  
お。と。奴。ハ。其。八。反。が。ん。ま。ら。り。よ。お。う。り。終。よ。と。れ。も。ゆ。い。な  
と。い。し。ま。り。と。さ。い。し。の。ま。ら。う。の。ま。の。條。の。本。御。お。職。の。苗。の。志  
や。り。表。も。み。ら。う。く。又。ハ。親。を。代。の。真。宗。あ。れ。た。長。崎。と。し











と一ふよ慈く。堂船あきさねをわてりよもせむせむ。おめり  
 うれれうれしくせん慈被船あきさねしと。命いのちくくく皆みなちりくよ成て。船  
 出られぬ船ふねといりぬ。是これらり小國こくに志しの遊あそび女めよあんと。  
 船ふねと傾かたむたりとて。傾かたむ船ふね成なりたりあそおそれるひ。海  
 く遊あそ女めよ令よりよて。船ふねとと船ふねをくくくくくく  
 せ。心こころのいもがうあさよあるとりよゆ成なりたり。いさけ  
 丸たまごあよんこめあしと。上うへ方かたへのわらぶ船ふね成なりたり。  
 船ふね成なりの舟ふねりとうららる。くくくはなよ定さだまりとあん

一之巻終

積丸文庫

① 新亀屋  
 横若町  
 壹丁目

新亀屋  
 横若町  
 壹丁目

